

翌早朝から天皇陛下のお供をして大演習に行かれることになっていたので、早くおやすみになられたのか
もしれないのです。侍従武官長というような高貴のお方を訪問する時は、前もってご都合を伺い、日時を
お尋ねしてお指図を受けて訪問するのが常識であるのに、そんなことは少しもわからず、突然、しかも夜
遅くお訪ねしたのですから、誠に世間知らずの非常識なことだったので。私は窓越しに用件をお話申し
上げたのです。ところがどうでしょう、私が「皇后陛下の台覧に供したい・・・」と申し上げると「暫く
お待ちなさい」と言われて玄関の電燈をパツとおつけになり、正面入口をお開きになったのです。さすが
奈良大将と思ったのでした。こと皇室に関するをお聞きになるとさつと玄関の電気をつけられたので
した。私は早速中に入ったのです。玄関を入れて立っていると奈良大将がお出でになり、お座りになり、
煙草盆を出されたのです。私が夢中になっているのを落ち着かせるためでしょうか、私の前に煙草盆を出
されたのでした。それから改めて用件を申し上げると「解りました。翌朝、宮内省に行つて津野田少将に
お会いなさい」といわれたのでした。

翌朝、津野田少将をお訪ねしたら、津野田少将は大森皇后宮太夫に紹介されるため、私を宮中奥深く連
れて行かれたのです。そのころは廊下には電灯はなく、ろうそくが置いてありました。奥深く行ったとこ
ろで大森太夫にお目にかかり、台覧のことをお話し申し上げたのです。大森太夫は「解りました、それを
京都府に行つて話しておきなさい」といわれ喜んで帰ったのです。そして早速府庁に行き秘書課長にその